銭形の」と言って、下手人（げしゅにん）＝犯人に取り縄をかけるシーンは、平次と万七の友情を見ているようで、実にすがすがしかったです。しかしそこで一つ疑問が出てきました。銭形平次は通称名で、正式の名前は「神田明神下の平次」といいます。一方、万七は三ノ輪を領地とする岡っ引きという設定で、野村胡堂（のむらこどう）の原作には書かれているようですが、しかし現実には神田明神下と三ノ輪は、2～3㌔はあると思うのですが、車も電車も走っていない時代に、平次と万七はどこの番屋で会い、どこで起こった事件に関わったのでしょうか？いくら空想の小説の世界でも、不自然だと思います。まあ実際には岡っ引きなんていう仕事はなかったみたいですね。ただ、町奉行所に仕える、同心や、与力の手先のような人はいたという事は聞いたことがあります。ですから時代劇に出て来る、かっこいい岡っ引きなんて考えられないですね。

右側が銭形平次の大川橋蔵です。
左側が遠藤太津郎の三ノ輪の万七です。

さて三ノ輪橋周辺には、テレビコマーシャルで有名になった大きなスーパーマーケットや、両区を結ぶ明治通り、日光街道に続いている昭和通りも通っています。それだけのアクセスの良い、立地条件もいい場所ならそこの周辺も台東区になればいいと思うのですが、荒川区民の中にも両区が一緒になれば良いと思う人がいるかもしれませんねえ。しかしもしそんな事になって、荒川、台東の両区が一緒になり合併ということになったら、新たな区が出来るということになり、例えば台東区は三ノ輪のほか、浅草、今戸、清川、東浅草、橋場、竜泉、日本堤、千束が荒川区南千住と一緒となり、入谷、下谷、松が谷、上野、谷中、上野桜木、根岸、池之端が荒川区の尾久や、日暮里、町屋と一緒になれば少しは立地条件もよくなることもあるでしょう。しかしもしそんなことになって新たに合併した町は、どっち区の名前を優先的に付けるのか？

そもそも台東区は旧浅草区と、旧下谷区が1947(昭和22)年合併し誕生したそうです。　浅草の観音様でお馴染みの金竜山浅草寺は、創建 1400 年以上の歴史を持ち、浅草六区は劇場や、映画館などの中心だったそうですが、高度成長期1955(昭和30)年の始まった頃、そういった娯楽の中心街は、池袋，新宿、渋谷に移ったそうです。しかし浅草は今も観光地として、人気があるそうです。もう一つ下谷区の中心上野は、上野公園に国立博物館など日本を代表とする美術館や博物館が多数あるほか東京芸術大学は、芸術大学の最高峰として、『芸術・文化の発信地』となっています。東京の出入り口である上野駅は、1883 年（明治 16 年明治 16 年）に開業。今や上野駅は巨大ターミナル駅の中に飲食店や、衣服、グッツを扱う店舗やスーパーマーケットなどの商業施設でにぎわっています。浅草を中心とした隅田公園周辺は、春は満開の桜の下で花見。夏は花火でにぎわっています。やっぱり台東区は今のままがいいですね。